



お茶の水女子大学  
**ECCELL 社会人プログラム**  
**変革期の乳幼児教育・**  
**保育を考える**

平成26年度 後学期

〔開講科目〕

- 乳幼児発達障害論Ⅳ** (水曜日) 2 単位  
 10/1(水)～1 月中 18:20-19:50 榊原洋一
- 現代保育課題研究Ⅷ** (木曜日) 1 単位  
 10/2(木)～1 月中 18:20-19:50 浜口順子, 榊原洋一ほか
- コミュニティ保育資源の活用Ⅳ** (火曜日) 2 単位  
 10/7, 11/4, 11/18, 11/25, 12/9, 1/13 18:20-21:30  
 12/20(土)10:00-15:30 多田千尋
- 乳幼児保育マネジメントⅣ** (集中講義) 2 単位  
 1/10(土), 1/11(日), 1/31(土), 2/1(日) 安治陽子
- 子ども理解と保育の探求Ⅳ** (集中講義) 1 単位  
 12/6(土) 刑部育子, 12/13(土) 浜口順子,  
 12/27(土) 小玉亮子
- 比較保育実践研究Ⅳ** (集中講義) 1 単位  
 11/23(日), 11/29(土), 12/23(火・祝) 大和洋子

■ 受講生は「お茶の水女子大学 科目等履修生」として登録され、授業回数の 3 分の 2 以上出席する他、一定の条件を満たした場合には、単位が認定されます。

■ **男性も受講可能**です。

■ 開講日時：シラバス (別紙) をご確認ください。

■ 納付金：

検定料 9,800 円

入学料 28,200 円 (継続の場合、3 年間有効)

授業料 14,400 円 (1 単位につき)

※本学卒業生・修了生は、入学料が無料となります。

詳しくは、お茶の水女子大学 ECCELL ホームページ  
 をご覧ください。

⇒ <http://www.cf.ocha.ac.jp/nyuyoji>

**応募期間**

平成26年7月28日(月)～8月1日(金) (※消印有効)

**応募方法**

出願要項・入学願書をお茶の水女子大学ホームページからダウンロードしてください (大学教務チーム窓口にも直接請求することもできます)。  
 出願に必要な書類を整えた後、下記送付先までご郵送ください。

⇒ **お茶の水女子大学ホームページ** : <http://www.ocha.ac.jp/>

〔願書送付先〕

〒112-8610 東京都文京区大塚2-1-1 お茶の水女子大学 教務チーム (電話: 03-5978-2722)

〔問い合わせ先〕

お茶の水女子大学 ECCELL 社会人プログラム (特別設置科目) 担当  
 電話: 03-5978-5949 E-mail: [nyuyoji-info@cc.ocha.ac.jp](mailto:nyuyoji-info@cc.ocha.ac.jp)

# 平成26年度 後学期 開講科目

## ■乳幼児発達障害論Ⅳ（水曜日）

榎原 洋一（お茶の水女子大学大学院 教授）

乳幼児期に比較的良く見られる神経、精神疾患について概説します。具体的には、てんかん、脳性まひ、筋疾患などの神経疾患、精神遅滞、言語遅滞、協調性運動障害などの発達障害、さらに心身症、不安障害、うつといった精神疾患の特徴、原因と対応について、詳しく解説します。

## ■現代保育課題研究Ⅷ（木曜日）

浜口 順子、榎原 洋一（お茶の水女子大学大学院 教授）ほか

本授業では、受講生自身の関心をもとに、乳幼児の保育や教育に関する問題や、保育現場などで直面するさまざまな課題について、各自研究テーマを設定し、ゼミ形式で話し合いながら研究レポートの作成を目指します。たとえば、子どもの発達や育ちと保育の関係、実践現場における子育て支援のあり方、観察記録やカンファレンスの活用、保育環境や表現の問題、海外の保育との比較や保育の歴史など、各自のテーマについて検討を行い、研究を進めていきます。人数が多い場合は、研究テーマによって少人数のグループに分かれ、複数の担当教員とともに考察を深めていきます。隔週木曜日の開講を基本としますが、受講生の予定によって柔軟に日程を組んでおり、個別指導を行うこともあります。学期末に、学習・研究結果をまとめて発表します。希望者には日本保育学会などでの発表もサポートします。

## ■コミュニティ保育資源の活用Ⅳ（火曜日）

多田 千尋（東京おもちゃ美術館 館長）

地域との連携と協同が今や不可欠の保育及び幼児教育、子育て支援の中で、コミュニティの中に人的資源や文化資源を見出し、計画・連携の実行を図れるよう知識を身に付け見聞を広げます。また、現場検証を重視しつつその方法を探り、コミュニティ保育資源の可能性を具体的に探り、地域コミュニティを精査できる力を育むことを目標とします。クオリティの高い学びは現場にこそあり、多くの専門家との交流の中で育まれます。こうした視点を重視した授業を多角的に、多面的に展開します。

## ■乳幼児保育マネジメントⅣ（集中講義）

安治 陽子（お茶の水女子大学人間発達教育研究センター 特任講師）

子どもの育ちは、それぞれに豊かな学びと発達に支えられています。保育の場は、そのような豊かな学びと発達を子ども自身が実現していく場であり、保育者には、それを細やかな配慮のもとに準備し、さまざまな保育・教育資源、人的資源を活用しながら保育環境を構成していく力、さらにその場に依拠して一場面の展開に応じて、また子どもの育ちに応じて柔軟にアレンジしていく力が求められます。子どもの育ちも保護者のニーズも多様化し、保育のあり方も複雑化しているなかで、しかし子どもは、実に豊かな学びを実現し、発達を遂げながら、保育という場で生活体験を積んでいます。子どもの生活体験について、その豊かな学びと発達に即して理解を深め、日々の保育の意味をとらえ直す作業を通して、保育の質向上のための取り組みを自ら駆動していく力をつけていくことを目標とします。

## ■子ども理解と保育の探求Ⅳ（集中講義）

刑部 育子（お茶の水女子大学大学院 准教授） 浜口 順子・小玉 亮子（同大学院 教授）

3名の講師がそれぞれの視点からビジュアル資料を中心に持ち上げ、子ども理解を試みます。①写真を材料にしたワーク（刑部）、②戦前の幼児の教育絵本から子ども観の変化を読む（浜口）、③映画から考える子ども達の今（小玉）などの内容を予定しています。

## ■比較保育実践研究Ⅳ（集中講義）

大和 洋子（非常勤講師）

「多文化化する日本の社会における子どもと多文化共生」をテーマとして考えます。日本においても様々な出自を持つ人たちが増えてきました。そこで日本の移民政策の歴史を振り返りつつ、改めて日本社会における多文化化を再確認し、正しい背景知識を持つことを目指します。そして様々な文化的背景にある子どもたちやその両親の思いに気づけるよう、主にアジア諸国の保育環境がどのようなものかをビデオ映像やドキュメンタリー、映画といった映像や出版物を通して観察し、各地域が持つ文化的背景の違いを学習します。また、宗教は生活の一部となっている国や地域もあります。宗教による生活習慣の相違も知識として理解することを目指します。教育現場において「なぜ？・どうして？」と疑問に思う行動に出る子どもや、親の要求の背景には必ず理由があります。気が付かないうちに偏見や差別のまなざしを向けることのないよう、私たちが当たり前、常識と思っている事がユニバーサルなものなのかを受講生の皆さんと再確認していきたいと思えます。